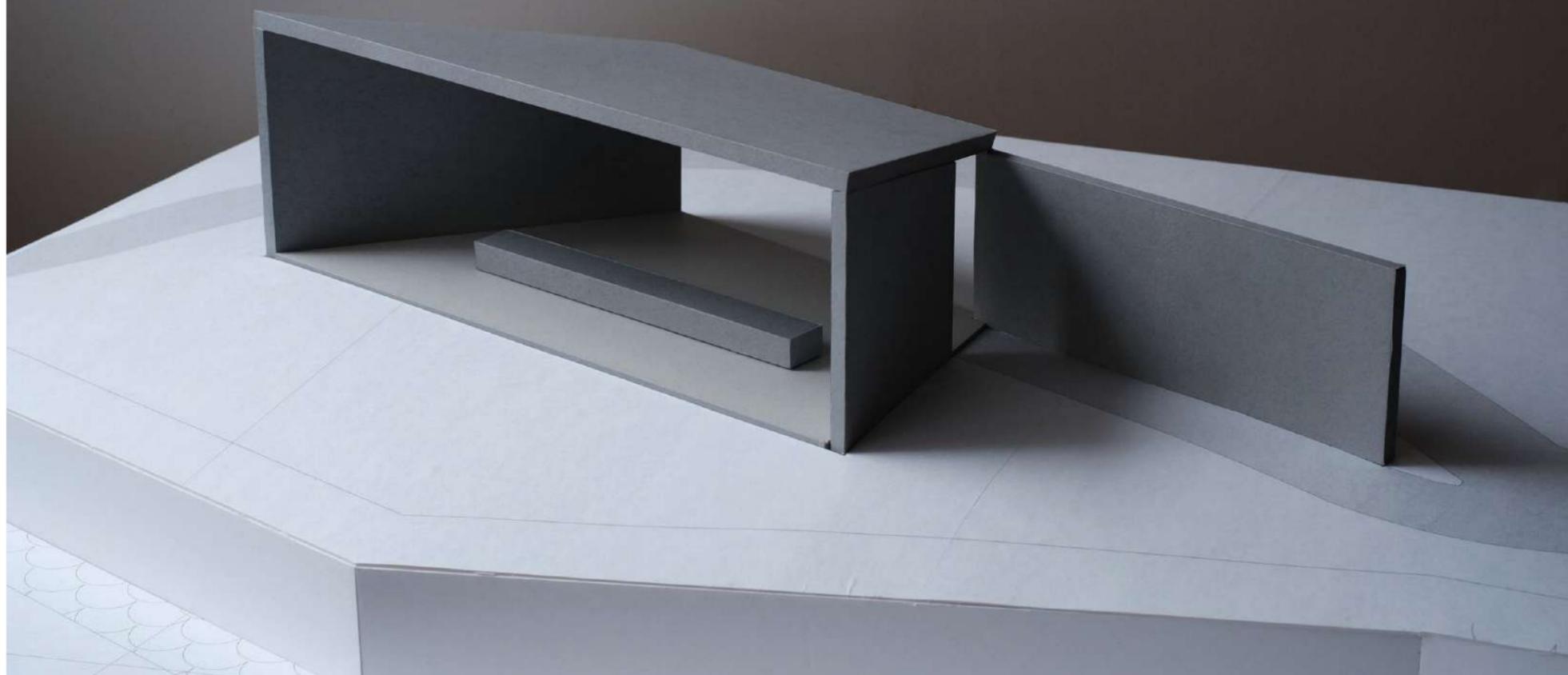


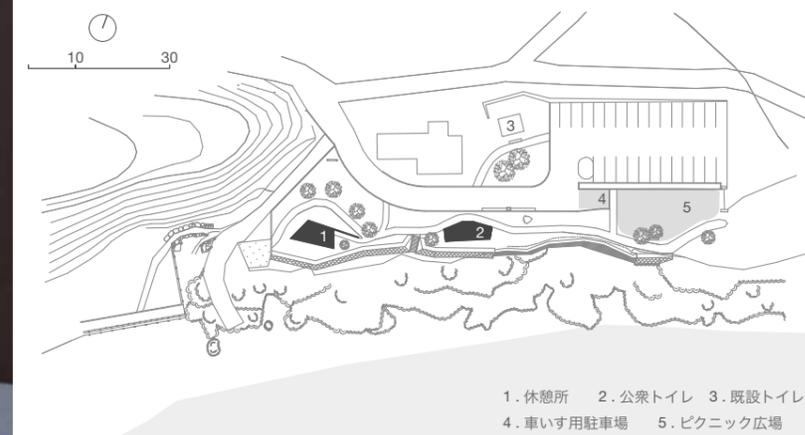
大度浜海岸の休憩所と公衆トイレ

Odo, Okinawa, Japan 2021



Site

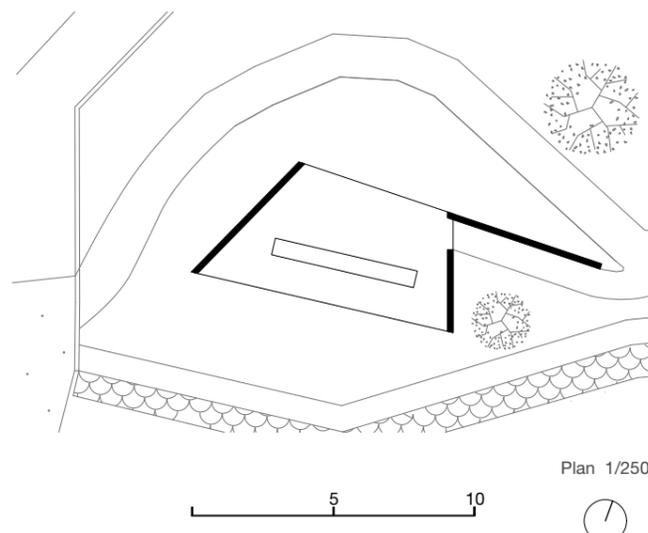
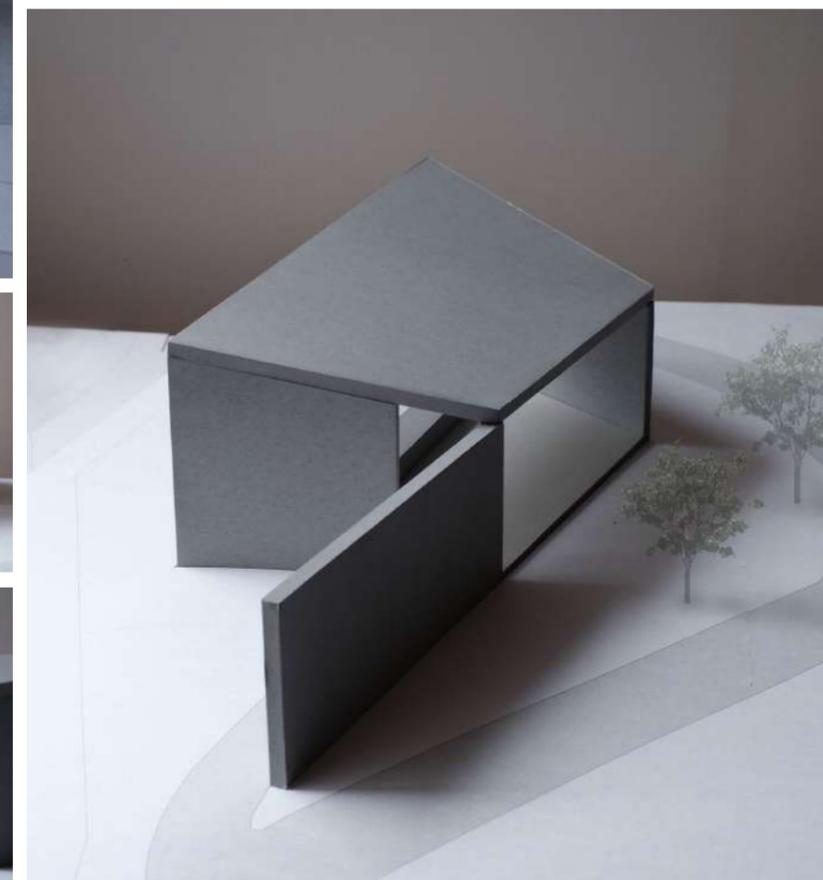
敷地は沖縄県南部の海岸沿いに位置する。方言でイノーと呼ばれる礁池や石灰岩の岩、海の水平線 圧倒的な自然風景の中で 建築はどういった佇まいでそこに在るべきなのか 思索していく。



1. 休憩所 2. 公衆トイレ 3. 既設トイレ
4. 車いす用駐車場 5. ピクニック広場

配置計画

公衆トイレは敷地の中央部に配置し、東側のピクニック広場と西側の休憩所の両方からアクセスできる位置とした。休憩所は綺麗な海岸線が見え、スペースにゆとりのある西側に配置した。既存の緑化スペースだったエリアには車いす駐車場とピクニックスペースを拡充した広場を設けて、公園利用を促進する計画とした。



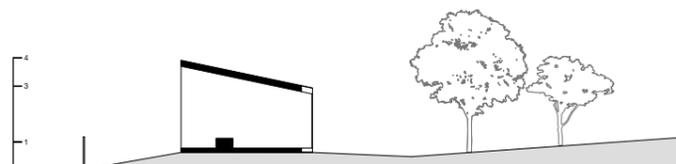
Plan 1/250

明確な物体として

自然の中には本来、物語やコンセプトは存在せず、ただそこにある木や岩海が静かに存在している。建築も明確な物体として純粋に自律し、その場所の風景の中に佇む一つの物質として、自然な振る舞いになることを目指して構成していった。

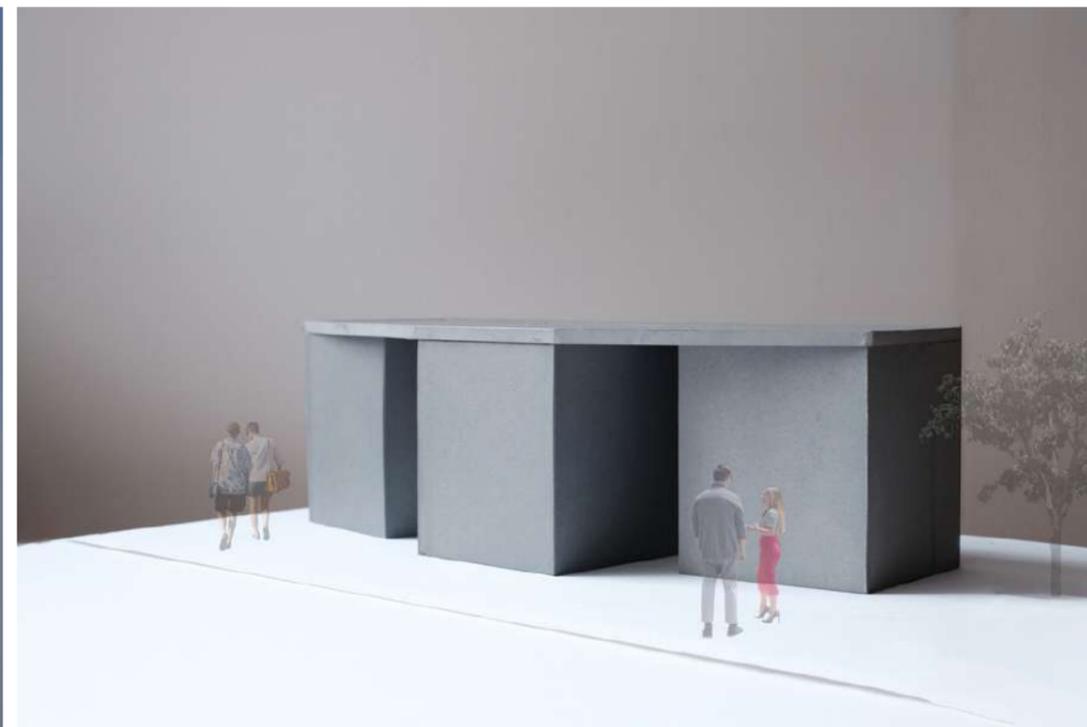
休憩所について

直線や面を使って極限までデザインをシンプルに削ぎ落とし、人工物らしい佇まいを目指した。簡素さと慎ましさが、周囲の自然の迫力と美しさを引き立てる。防犯上の観点から、道路側からは内部の様子が視認できるように開口が設けてあるが、アプローチしていく際には内部の空間がすぐに見えすぎないように計画した。



Section 1/250





バリアフリー性について

休憩所、トイレ共に階段や段差を無くしてスロープでアクセスできるように計画した。また、車いす用駐車場から道路を横断することなくトイレまでアクセスできるルートを確認した。

構造計画とコスト・工期について

構造形式はシンプルな壁式鉄筋コンクリート造とし、構造的に無理のない計画とすることで工期の短縮とコストダウンを図った。

仕上げとメンテナンス性について

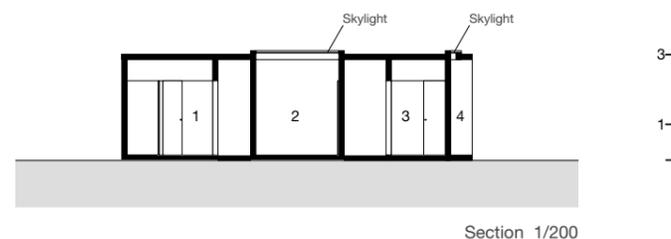
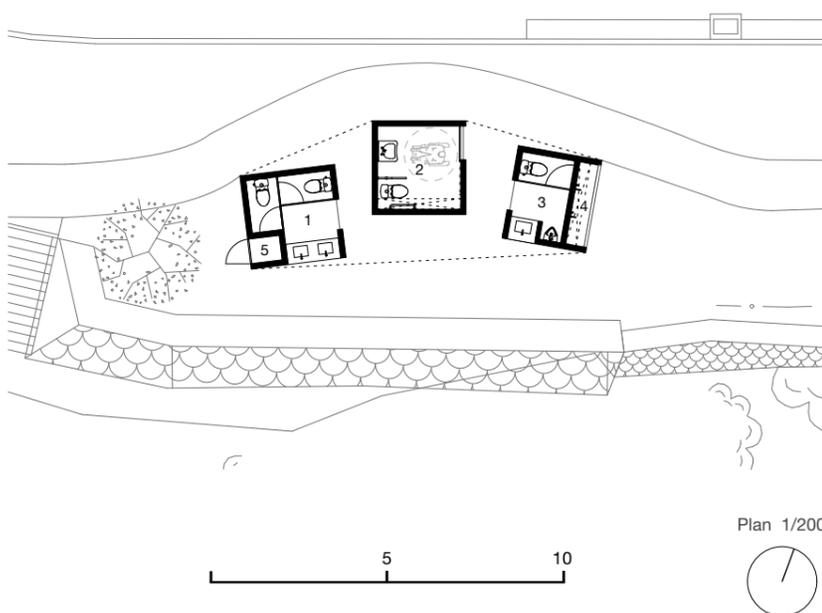
構造形式が鉄筋コンクリート造のため耐用年数は長いですが、海沿いに面するためコンクリートの保護について配慮しモルタル左官で躯体を被覆した上でさらに保護塗料を塗布する仕上げとした。

建築物概要

構造形式	壁式鉄筋コンクリート造 平家建て
床面積	
休憩所	31.08㎡
公衆トイレ	18.25㎡
屋根・外壁	モルタル左官研磨の上 クリア保護塗装
内壁 (公衆トイレ)	モルタル左官補修の上 EP塗装
床	土間コンクリート研磨の上 撥水材塗布

公衆トイレについて

トイレは物質感のある抽象的なボックスの外観とし、各部屋を分けることで、隙間の通路から海が見えるようにした。また、このボックスには角度を与えており、お互いの入り口から視線が交わりにくいように角度と配置を決定していった。既存のトイレの薄暗い印象から今回のトイレでは、女子トイレと男子トイレの室内からも海が望めるようにした。また、内部の仕上げを塗装仕上げとすることで、海側から自然光をより効率的に取り込んで明るい空間となるようにした。多目的トイレには採光のためのトップライトを設けた。



1. 女子トイレ 2. 多目的トイレ 3. 男子トイレ 4. 足洗い場 5. 清掃用具入